



石岡市峯寺山には、球状花崗岩という茨城県の天然記念物があります。地元では、写真のような形から小判石とも呼ばれています。球状部分の鉱物組成は「花崗岩」の組成ではないので、ここでは球状岩と呼ぶことにします。この球状岩には堇青石が多量に含まれているので、当館では、堇青石として鉱物のコーナー(第四展示室最奥部の壁内ケース)に展示しています。

峯寺山の球状岩は、筑波花崗岩(斑状花崗閃緑岩)に貫入した幅1m程度の岩脈の中に、長径数cmのキウイフルーツのような形で産しますが、残念なことに露頭では、球状の部分が風化作用に弱いためしばしば剥離脱落し、椀状の窪みとなっています。キウイフルーツの芯に相当する部分は、変成岩起源と考えられる片状構造の発達した黒雲母と石英からできています。厚さ1-2mmの皮の部分に相当するのは、細粒の斜長石、石英、黒雲母からなります。皮と芯の間に青灰色の堇青石が放射状に成長していて、白い部分は斜長石です。

当館2階の筑波山地域ジオパークの岩石・鉱物展示ケースにも、峯寺山産の球状岩が2個展示されています。また、海外から寄贈された岩石のプレート展示コーナー(受付前の壁面)に、峯寺山産とは内部の様子が異なる球状岩(ペルー及びフィンランド;「球状花崗岩」)があります。フィンランドの球状岩は同心円構造をしており、球状岩にはいろんなでき方があるようです。

(地質標本館室 酒井 彰)